

## 日本労働年鑑 第51集 1981年版

The Labour Year Book of Japan 1981

## 第二部 労働運動

## X 国際労働組合運動と日本

## 1 国際労働組合組織の動向とわが国の労働組合

## 3 同盟の国際連帯・交流活動

## 同盟の国際連帯活動方針

同盟は八〇年一月二三日～二五日開催の第一六回定期全国大会で採択された一九八〇・八一年運動方針のなかで、国際活動の方針をつぎのように決定した。

## 【国際活動の強化、一九八〇・八一年度運動方針、第三部の十(要旨)】

一、国際自由労連の基調を支持し、同労連が進める三つの重点的国際活動、すなわち、(1)経済と社会政策に関する国際的な行動についての政策展開と調整を行い、関係各国首脳および国連、ILO、OECD等の各国際機関に民主的労働組合の政策を反映させる。(2)民主的労働運動の強化発展のための連帯活動、組合教育、共済事業等の諸活動に対して援助を行なう。(3)自由な労働組合主義の推進、人権と労働組合権を守り、圧政に苦しむ労働者や恵まれない人々に援助の手をさしのべる活動を強化する。

二、国際自由労連と密接な関係にある国際産業別組織への関係構成組織の加盟を促進し、連携を深めながら共通課題に取り組む。

三、AFL-CIOの国際自由労連への復帰を期待するとともに、友好関係を強める。このため定期会談を充実し、相互理解を増進し、共通課題についての取り組みを強化する。とくにアジアにおける連帯活動について協力を促進する。

四、民主主義勢力の一翼を担う西欧諸国労組との友好関係を強化し、交流を深める。

五、経済の国際化に対応して、経済協力開発機構(OECD)、同労組諮問委員会(TUAC)の活動に積極的に参加し、経済政策に関する国際的調整・協力と相互理解の増進をはかる。

六、アジアにおいて、同盟の果すべき役割は一層大きくなっており、次により行動を強化する。(1)韓国EKTU、台湾CFL、香港HKTUCとの連携を密にし、定期会談を通じて共通の問題解決に取り組む。(2)国際自由労連アジア地域の活動を充実するため、事務局の国際化、運営の改善をはかりつつその体質を強化する(3)ARO企画・教育局の企画と運営を充実するため協力する。(4)アジア地域組織の連帯基金に協力するとともに、アジア各国労組の活動を支援し、交流を促進する。

(5)アジア各国の恵まれない人々への救援活動を推進する。(6)アジア各国労働組織を拡大強化するために、教育・調査にたいする人的・経済的協力を推進する。(7)アジア各国の行っている協同組合、共済活動などの労組事業活動について援助・協力する。(8)

経済開発の基礎となる技能者養成、海外技術協力について労働組合の立場から援助・協力する。(9)進出企業の実態把握につとめ、経済進出、経済協力をめぐる諸問題についての対策を進める。

七、ILOが本来の目的を達成するようILOの諸活動を支持し、積極的な取り組みを行う。このため、(1)ILOの本来の目的にそった活動を行うための必要な機構改正、諸手続きの改正のために努力する。(2)アメリカがILOに復帰するようその条件づくりに努力する。このため西欧労組との協力連携を行う。(3)ILOを単なる提訴機関だけの機能としかうけとらない取り組みを排し、先進国労組にふさわしい援助・協力活動を行い、ILOのめざす社会正義の確立に努力する。(4)ILOの指定する重要基本条約の批准促進を行う。

八、わが国労働運動についての正しい理解を広めるために、国際広報活動を強化する。

九、国際化時代に対応する労働組合の国際担当活動家の育成を行う。

## カンボジア難民救済問題

ケルステンICFTU書記長およびデバン・ナイアARO会長からのアピールにこたえて、同盟は、七九年一二月一九日、一万ドルを、総評加盟六単産(全逋、都市交、炭労、全鉱、日放労、全電通)は、八〇年一月二九日、五〇〇〇ドルを、それぞれ「AROアジア連帯基金のカンボジア救援基金」に送金した。

## AFL=CIO大会への出席

七九年一一月一五日～二三日、ワシントンで開かれたAFL=CIO第一三回定期大会に、同盟から天池会長、相原国際局長が招かれて出席した。

## 同盟代表団のイスラエル訪問

天池会長を団長とする同盟代表団(上西副書記長、相原国際局長)は、一〇月二二～二五日の四日間にわたってイスラエルを訪問し、イスラエル労働総同盟(HISTADRUT)との会談、アジア・アフリカ労働大学での講演、HISTADRUT共同組合事業所、共同農村の代表者との懇談および大統領との会見をおこなった。同盟とHISTRADUTとの会談は一〇月二五日におこなわれ、(1)AROの強化、(2)アジア・アメリカ自由労働協会(AAFLI)との協力、(3)タイ特別支援プログラム等について意見交換をおこない、つぎのコミュニケを発表した。

### 【同盟・HISTRADUTコミュニケ(要旨)】

両代表団は協議を通じて、下記事項を確認した。(1)東南アジアにおける自由な人々や、その労働運動が危機に瀕している深刻な政治・労働情勢に懸念をあらわし、(2)AROの強化のため、アジア各労組のより密接な協力をよびかけ、(3)タイにおける労働者の生活福祉、社会的地位の向上の諸計画を立案して、タイ労働組合会議(LCT)への共同の援助を決定した。(4)アジア労働運動の緊急に解決を要する諸問題について、すべての自由な労働組合に対して、アジア労働組合の発展のために協力して共通の努力を行なうことを要請する。(5)インドシナ半島における平和の回復と、この地域におけるすべての難民に対して、人道的援助を行なうよう世界の各国政府、諸機関、諸団体に要請する。(6)同盟とHISTADRUTは、八〇年一月東京において、協力に関する討議を継続することに合意した。

七九年一〇月の共同コミュニケで一月に予定されていた同盟とHISTRADUTとの会談はその後延期され、八〇年五月一七日、東京で開催された。会談の議題は、(1)AROの強化、(2)AAFLIのアジアにおける役割と協力、(3)アジアにおける協力プログラム、(4)ARO地域会議にむけて同盟とHISTRADUTとの意見調整、などであった。

(注)アジア・アメリカ自由労働協会は、国際自由労連を脱退したアメリカのAFL=CIOがアジア対策のためにつくっている組織。

#### TUC大会への参加

七九年九月三日～七日、ブラックプールで開催されたTUC第一一一回大会に、同盟から前川書記長、相原国際局長が派遣され、大会に出席した。

日本労働年鑑 第51集 1981年版

発行 1980年11月25日

編著 法政大学大原社会問題研究所

労働旬報社

\*\*\*\*年\*\*月\*\*日公開開始

---

■ ←前のページ 日本労働年鑑 1981年版(第51集)【目次】 次のページ → ■  
日本労働年鑑【総合案内】

---

法政大学大原社会問題研究所(<http://oisr.org>)

---